

## 2026年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2025年7月15日

上場会社名 株式会社 ラピーヌ

上場取引所 東

コード番号 8143 URL <https://www.lapine.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐々木 ベジ

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐々木 ベジ

TEL 03-6635-1847

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年2月期第1四半期の連結業績(2025年3月1日～2025年5月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年2月期第1四半期	478	12.4	71		70		72	
2025年2月期第1四半期	545	25.4	109		93	889.3	91	

(注) 包括利益 2026年2月期第1四半期 69百万円 ( %) 2025年2月期第1四半期 128百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年2月期第1四半期	30.74	
2025年2月期第1四半期	38.55	

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年2月期第1四半期	3,088	774	25.1
2025年2月期	3,041	844	27.8

(参考) 自己資本 2026年2月期第1四半期 774百万円 2025年2月期 844百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年2月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年2月期		0.00		0.00	0.00
2026年2月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年2月期の連結業績予想(2025年3月1日～2026年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,050	5.2	180		180		180		76.14
通期	2,150	5.2	280		280		255		107.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年2月期1Q	2,567,064 株	2025年2月期	2,567,064 株
期末自己株式数	2026年2月期1Q	203,204 株	2025年2月期	203,006 株
期中平均株式数 (四半期累計)	2026年2月期1Q	2,363,953 株	2025年2月期1Q	2,364,205 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、1株当たり情報の端数処理方法につきましては、有価証券報告書、半期報告書に合わせて、切捨てとしております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善傾向を見せる中、景気は緩やかな回復基調を辿りました。

その一方、物価高騰、原材料・エネルギー価格の高止まりが続く中、米国の通商政策の動向、不安定な中東情勢などの影響から国内景気の先行きにリスクが残るなど、個人消費の下振れが懸念され、経済環境は厳しさが続いております。

当アパレル業界では、物価高騰の影響から、ミセス層を中心とした消費者の衣料品消費マインドは慎重さが続いており、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと当社グループは、継続して当社製品のターゲット消費者層の価値観の変化、多様化に対応し、お買い求めやすい価格での商品供給に取り組むことにより、店頭販売数量の増加を図るとともに、適正利益の確保に努め、厳しい消費環境に対処してまいりました。また、専門店卸販路の回復にも努め、加えて、製造原価低減策の実行や固定費及び変動費の抑制、合理化策を継続してまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4億78百万円（前年同期比12.4%減）となりました。損益面におきましては、販売費及び一般管理費の抑制に努めましたものの、営業損益は71百万円の損失（前年同期は1億9百万円の損失）、経常損益は70百万円の損失（前年同期は93百万円の利益）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損益は72百万円の損失（前年同期は91百万円の利益）となりました。

セグメント別の経営成績の概要は次のとおりです。

#### <卸売事業>

百貨店販売事業においては、衣料消費の多様化が進む中、既存顧客層の高齢化が進み、衣料品需要が減退する市場環境に対応して、消費者がお買い求めやすい商品価格に設定して集客力を高め、新規顧客の獲得に努めて売上を回復することに取り組んでまいりました。また、当社の商品企画・発注タイミングを実需期に合わせるよう改善するとともに、自社の企画力、技術力、マーケティング力を発揮させる従業員教育を継続して行っております。

専門店販売事業においては、取引条件の改善や不採算取引の見直しを継続して取引先単位の売上高確保に取り組み、収益面の改善に努めてまいりました。また受注から納品までのリードタイムを短くし、受注精度向上、店頭消化促進に努めてアパレル卸として新規・新販路開拓に取り組んでまいりました。

その結果、当事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は1億87百万円（前年同期比22.1%減）となり、営業損益は58百万円の損失（前年同四半期は99百万円の損失）となりました。

#### <小売事業>

卸売事業と同様に、店頭の売上が伸び悩む中、継続して立地別、既存店舗単位の損益改善に取り組み、お客様が求めるニーズに合わせた魅力ある品ぞろえ、効果的な販売促進策の実行により店頭活性化を図り、新規お客様の獲得に努めて、損益改善に注力してまいりました。

その結果、当事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は2億88百万円（前年同期比4.5%減）となり、営業損益は4百万円の損失（前年同期は0百万円の損失）となりました。

直営店数につきましては、当第1四半期連結累計期間に、新規出店及び退店はなく、同期間末の運営店舗数は当社グループ合計で32店です。

#### <福祉事業>

当社グループの社会福祉への取組みとして、障害者総合支援法に基づく「障害者福祉サービス事業」と農地法に基づく農業委員会の認可を受けた「野菜の生産及び販売事業」を両立させる事業を行う会社として2012年にラピーヌ夢ファーム株式会社を設立し事業を行っております。事業規模としては、連結売上高に占める割合は小さいものの、水耕栽培に加えて土耕栽培にも注力し、引き続き採算性改善に努めております。

当事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は2百万円（前年同期比19.9%減）となり、営業損益は8百万円の損失（前年同期は9百万円の損失）となりました。

なお、福祉事業に関しましては、就労支援事業運営費収入5百万円の営業外収益などがあり当第1四半期連結累計期間の四半期純損失は3百万円となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて46百万円増加し、30億88百万円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ26百万円の増加となり、13億52百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少65百万円などがあった反面、商品及び製品の増加45百万円、仕掛品の増加37百万円などがあったことによります。

固定資産は前連結会計年度末に比べ20百万円の増加となり、17億35百万円となりました。これは主に、投資有価証券の増加18百万円などがあったことによります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億16百万円増加し、23億13百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べ1億32百万円増加し、14億10百万円となりました。これは主に、買掛金の増加1億12百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加11百万円などがあったことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて16百万円減少し、9億3百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少14百万円などがあったことによります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて69百万円減少し、7億74百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少72百万円などがあったことによります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年2月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2025年4月18日に公表しました業績予想から変更はありません。

（4）継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、第71期（2019年2月期）から第77期（2025年2月期）連結会計年度において、営業損失を計上しておりました。当第1四半期連結累計期間においても営業損失が続く中、取引金融機関へ借入金元本の返済スケジュールに関して継続して交渉を行っております。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していません。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を継続して実行に移しております。

①卸売・小売事業については、

- ・製品の品質は維持向上を図りながら、パターン・縫製仕様の合理化を進め、よりお買い求めやすい販売価格で、売れ筋のトレンドを押さえた新作デザインを展開し、幅広いお客様層へ訴求できる魅力ある新商品の提供に努めていきます。
- ・百貨店、直営店売場など店頭V.P（ビジュアルプレゼンテーション）は、顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新顧客の獲得、増大を図っております。
- ・製造、仕入額のコントロールとジャストインタイムの納期コントロールによる在庫リスクの低減に努めております。
- ・製造原価の低減による適正粗利確保の取り組みを推し進めるとともに、引き続き固定経費の徹底的削減を継続して、売上高の維持拡大と安定的な営業利益を確保できる体制を整えてまいります。

②ラピーヌ夢ファーム株式会社の福祉事業については、

葉もの野菜の水耕栽培、土耕栽培野菜の選定と生産性向上を進めるとともに、施設利用者の作業効率アップに資する教育訓練に努め、営業利益の創出を実現できる体制を整えてまいります。

③資金の確保については、

製造原価の低減、販売費及び一般管理費削減の継続的取り組み、取引金融機関へ借入金元本の返済スケジュールに関して継続して交渉を行っております。また政府による緊急経済対策に基づく各種税金及び社会保険料の納付猶予制度などの利用により、当第1四半期連結会計期間末における現金及び預金は6億94百万円と、当面の事業継続に必要な資金を確保しております。今後も同様の取り組みを継続するとともに、取引金融機関との良好な関係を維持しつつ、継続的に支援いただくための協議を行ってまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、今後の営業損益及び財務面に及ぼす影響の程度や期間について不確実性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を、四半期連結財務諸表に反映していません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	760,662	694,779
受取手形、売掛金及び契約資産	216,941	245,384
商品及び製品	307,441	352,900
仕掛品	3,771	40,788
原材料及び貯蔵品	1,920	1,917
その他	36,119	17,843
貸倒引当金	△1,020	△992
流動資産合計	1,325,836	1,352,622
固定資産		
有形固定資産		
土地	941,058	941,058
有形固定資産合計	941,058	941,058
投資その他の資産		
投資有価証券	517,418	535,731
差入保証金	168,422	168,422
退職給付に係る資産	84,283	86,262
その他	10,263	10,150
貸倒引当金	△5,995	△5,995
投資その他の資産合計	774,392	794,571
固定資産合計	1,715,450	1,735,629
資産合計	3,041,286	3,088,251

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	111,111	223,789
電子記録債務	4,685	3,849
短期借入金	845,087	843,723
1年内返済予定の長期借入金	49,658	61,572
未払金	191,801	188,515
未払費用	46,291	47,179
未払法人税等	8,114	8,417
契約負債	6,914	7,157
資産除去債務	1,860	—
その他	11,693	26,000
流動負債合計	1,277,218	1,410,204
固定負債		
長期借入金	680,342	666,188
繰延税金負債	72,287	70,228
資産除去債務	157,445	157,456
長期預り保証金	3,708	3,708
その他	5,962	5,962
固定負債合計	919,745	903,543
負債合計	2,196,964	2,313,747
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	849,263	849,263
利益剰余金	△134,474	△207,148
自己株式	△246,201	△246,259
株主資本合計	498,587	425,855
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	293,445	307,955
退職給付に係る調整累計額	52,289	40,693
その他の包括利益累計額合計	345,735	348,648
純資産合計	844,322	774,504
負債純資産合計	3,041,286	3,088,251

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)
売上高	545,756	478,289
売上原価	225,924	171,389
売上総利益	319,832	306,900
販売費及び一般管理費	429,156	377,961
営業損失(△)	△109,324	△71,061
営業外収益		
受取利息	0	6
助成金収入	208,593	5,451
雑収入	1,447	1,481
営業外収益合計	210,041	6,939
営業外費用		
支払利息	7,422	6,424
営業外費用合計	7,422	6,424
経常利益又は経常損失(△)	93,294	△70,546
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	93,294	△70,546
法人税、住民税及び事業税	2,138	2,126
法人税等合計	2,138	2,126
四半期純利益又は四半期純損失(△)	91,155	△72,673
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	91,155	△72,673

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	91,155	△72,673
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40,378	14,509
退職給付に係る調整額	△3,488	△11,596
その他の包括利益合計	36,889	2,913
四半期包括利益	128,045	△69,759
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	128,045	△69,759
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、第71期（2019年2月期）から第77期（2025年2月期）連結会計年度において、営業損失を計上してしております。当第1四半期連結累計期間においても営業損失が続く中、取引金融機関へ借入金元本の返済スケジュールに関して継続して交渉を行っております。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していません。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を継続して実行に移しております。

## ①卸売・小売事業については、

- ・製品の品質は維持向上を図りながら、パターン・縫製仕様の合理化を進め、よりお買い求めやすい販売価格で、売れ筋のトレンドを押さえた新作デザインを展開し、幅広いお客様層へ訴求できる魅力ある新商品の提供に努めていきます。
- ・百貨店、直営店売場など店頭VP（ビジュアルプレゼンテーション）は、顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新顧客の獲得、増大を図っております。
- ・製造、仕入額のコントロールとジャストインタイムの納期コントロールによる在庫リスクの低減に努めております。
- ・製造原価の低減による適正粗利確保の取り組みを推し進めるとともに、引き続き固定経費の徹底的削減を継続して、売上高の維持拡大と安定的な営業利益を確保できる体制を整えてまいります。

## ②ラピーヌ夢ファーム株式会社の福祉事業については、

葉もの野菜の水耕栽培、土耕栽培野菜の選定と生産性向上を進めるとともに、施設利用者の作業効率アップに資する教育訓練に努め、営業利益の創出を実現できる体制を整えてまいります。

## ③資金の確保については、

製造原価の低減、販売費及び一般管理費削減の継続的取り組み、取引金融機関へ借入金元本の返済スケジュールに関して継続して交渉を行っております。また政府による緊急経済対策に基づく各種税金及び社会保険料の納付猶予制度などの利用により、当第1四半期連結会計期間末における現金及び預金は6億94百万円と、当面の事業継続に必要な資金を確保しております。今後も同様の取り組みを継続するとともに、取引金融機関との良好な関係を維持しつつ、継続的に支援いただくための協議を行ってまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、今後の営業損益及び財務面に及ぼす影響の程度や期間について不確実性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を、四半期連結財務諸表に反映していません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)
減価償却費	421千円	一千円

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間（自 2024年3月1日 至 2024年5月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	240,322	302,002	3,431	545,756	—	545,756
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	240,322	302,002	3,431	545,756	—	545,756
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	240,322	302,002	3,431	545,756	—	545,756
セグメント損失(△)	△99,541	△578	△9,204	△109,324	—	△109,324

(注) セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間（自 2025年3月1日 至 2025年5月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	187,131	288,409	2,749	478,289	—	478,289
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	187,131	288,409	2,749	478,289	—	478,289
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	187,131	288,409	2,749	478,289	—	478,289
セグメント損失(△)	△58,295	△4,316	△8,449	△71,061	—	△71,061

(注) セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。